

sample版

荒川流域

ジョーさんの

植物そぞろ歩き

森林インストラクターのフィールドノート

豊島 襄

森林
インストラクター

はじめに

本書は、私のブログ『森林インストラクター・豊島襄のフィールド・ノート』から生まれました。そのブログは、二〇〇六年四月にスタートして、すでに三百本近くの記事を書きましたが、おかげさまで、多くの方にアクセスしていただき、そのうえコメントやトラックバックなどで激励をいただきました。今日まで二〜三日おきに三百回近くも続けてこられたのも、そうした方々の励ましのおかげです。ありがとうございます。

といっても、書いたブログ日記のすべてではありません。全部を採録すれば、とても一冊の本にはおさまりきりません。ということ、その中から、期間を区切り、おもしろ植物やそれが主役になっている森林生態系のテーマに直接的に関連するものを集めました。また本の構成に合わせて、それなりに手も加えています。

読者の中には、すでにネット上で記事を目にしていただいている方もいるかもしれませんが、しかし、それも、多くの方ではとびとびの断片でしかないのではないのでしょうか。雑多な記事も混ぜていることもあり、パソコン画面で読むのも、たいへんです。こうしたかたちで、テーマをまとめて一冊の本にするのも、意味はなくてはならないかと考えました。

「私のフィールド」である荒川流域での植物たちとの出会いが中心になっていて、この地域の植物地理案内という側面もありますが、それよりも、植物や生態系一般の話が主になりますので、他地域の読者にもじゅうぶん読んでいただけるものと思います。

第1のそぞろ歩きコース「四季の植物散歩」は、このブログがスタートしておよそ一年の記事の中から、そうした、植物や、それが主役になっている森林生態系のおどろき、新発見などをまとめました。季節感があるので、春・夏・秋・冬、それぞれの順番にしたがってなっています。自然のしくみや、生態系の話もまざっています。また、その中には、いまや全国的なネット・コミュニティになっている団塊世代応援サイト『元気埼玉』(<http://www.genki-saitama.com>)にアップされた「彩の国を彩る花と緑」シリーズのものもあります。

第2のそぞろ歩きコース「巨樹」は、もうすこしテーマをしぼって、気楽に読める巨樹シリーズをあつめたもの。といっても、たんに巨樹の紹介だけでなく、その樹木のウンチクなども書いています。何百年、千年をこえる巨樹には、かくれた？ファンも多く、ブログでも、巨樹をとり上げたときは、アクセス数も増えたように思いました。みなさん、幾星霜を経た、その荘厳ともいうべき巨樹の姿に勇気づけられるのかもしれない。

ところで、自分の著書でありながら、タイトルに「ジョーさん」などという敬称をつかう非礼をあえてしているのも、先の『元気埼玉』サイトに関係しています。このサイトのおかげで、

コミュニティ内では、「ジョーさん」が通称となっているからです。少しは流布しているので、いわば、森林インストラクターのブランド？として使わせてもらいました。

その『元気埼玉』サイトや、社長ブログ『ミューおばさんの団塊世代ど真ん中』(<http://genkis.exblog.jp>)でたびたびふれていただいていたおかげで、私のブログへのアクセス数も増え、おおいに励まされました。すでに、私のブログだけで延べ万人をこえる人、『元気埼玉』サイトをふくめれば、数万を優にこえる人が、この本の記事を、なんらかのかたちで目にしていただいているかもしれません。『森林インストラクター・豊島襄のフィールドノート』自体、『元気埼玉』とのコラボレーションといってもいいのかもしれませんが。先輩ブロガーとしてブログを書くことを薦めてくれたのも、社長の松山さんです。

その松山社長には、この本にも、推薦文の応援をいただきました。

「緑は、地球の命綱」、これは、私が以前書いた本（『森林入門』八坂書房 2006年）のテーマでした。二十一世紀のこれから大問題になってくる地球温暖化や水問題、さらには私たちの心身の健康といったテーマに、森林や、ひいては植物が大きく関わっています。そうした環境や資源問題などを考えていくにしても、まずは、身近な自然や植物に親しみ、知るところに出発点があると、私は思います。

この本が、そうしたことのきっかけになれば、森林インストラクターとして、これにすぐる喜びはありません。

いずれのそぞろ歩きコースからでも、散策していただければ幸いです。

はじめに 1

目次 4

第1のそぞろ歩きコース 「身近な植物」 7

1. はじめまして 8
2. コブシとハクモクレンは、どこが違う？ 10
3. クローンだから見えたえがある 12
4. ツバキとサザンカは、どう見わかる？ 14
5. 地球上で、植物がいちばん偉い！ 16
6. シャガは、どうして全国に広がった？ 19
7. スズメも文化を持つ 21
8. スプリング・エフェメラル（春の妖精） 23
9. 田島ヶ原さくらそう公園 26
10. ウワミズザクラ、これでも桜？ 31
11. 原因（目的）と結果の逆転 33
12. 非凡なる凡人（木）アカメガシワ 35
13. ヴァンデルング（森歩き） 40
14. 植物（森林）と地球温暖化 45
15. 森林浴 48
16. ウワミズザクラではありません。 51
17. 珍木・奇木の花 53
18. ここは中国か？ 56
19. エイリアンいっぱい 58
20. スイカズラ 61
21. 葉っぱの話① 枝か葉か 64
22. 葉っぱの話② 枝か葉か、の見わけ方 66
23. 葉っぱの話③ 葉のカタチいろいろ 68
24. 葉っぱの話④ 葉のカタチいろいろ（続） 72
25. 葉っぱの話⑤ 葉のカタチいろいろ（続々） 77
26. 葉っぱの話⑥ 葉の付き方 80
27. 葉っぱの芸当 ヒイラギの巻 84
28. ノリウツギ、またの名を「サビタ」 87
29. 梅雨時の里山 89
30. 森の母・ブナ 92
31. ブナだけの秘密 96
32. スイレンなど 99

第2のそぞろ歩きコース 「巨樹」

- 34 針葉樹と広葉樹の違い 103
- 33 キノコの役割 107
- 35 ハイビスカス属 108
- 36 タマアジサイなど 111
- 37 エイリアンのその後 113
- 38 地中の命脈わう世界 115
- 39 巾着田のヒガンバナ 118
- 40 ドングリころころ 121
- 41 エイリアンの跋扈 126
- 42 紅葉の秋—嵐山溪谷 128
- 43 どちらが、南か北か？ 132
- 44 東京には、イチヨウがよく似合う 134
- 45 春の七草 136
- 46 春いちばんの花は、なぜ黄色い？ 141
- 47 ウメ 144
- 48 万両、千両、百両、十両そろい踏み 149
- 49 遺伝子のばらつき ウバメガシ 152
- 50 虹は何色か？ 156

- 1 与野の大カヤ 160
- 2 大久保の大ケヤキ 164
- 3 巨樹紀行 166
- 4 妙行寺のモッコク 168
- 5 東京・善福寺の大イチヨウ 170
- 6 東京小岩・影向の松 173
- 7 上尾・龍山院の大ムクロジ 177
- 8 都幾川の児持杉 180
- 9 都幾川の慈光寺のタラヨウ 184
- 10 都幾川の大イチヨウと大カヤ 188
- 11 北本市・石戸蒲桜 194
- 12 上谷の大楠 197
- 13 金蓮院の大ラカンマキ 200
- 14 大宮公園のアカシデ 203
- 15 坂戸・多和目の大カゴノキ 206

あとがき

ジョーさんのこと (株)元気埼玉代表 松山まゆ美

第1のそぞろ歩きコース 「身近な植物」

1. はじめまして

2006年 3月

はじめまして。

森林インストラクターの豊島襄です。

このブログで、これから折にふれ私が野山を歩いて見つけた自然の美しさ、驚き、感動……を、インストラクターとしての自然や植物への知識（ウンチク）をまぶしながら、お伝えしていきたいと思えます。

題して「森林インストラクター・豊島襄のフィールドノート」。

「フィールドノート」とは、いわば「自然発見 覚え書き帖」とでもいえましょうか。

自己紹介のついでに、「森林インストラクター」の資格の概要を説明しておきましょう。



【アマナ】

ユリ科の多年草。

湿性の原野、川岸の湿ったところに生える。

3月28日秋ヶ瀬公園にて。

- ・平成3年に農林水産大臣認定の事業としてスタート。平成13年度に行政改革の一環として（社）全国森林レクリエーション協会に資格認定事業を移管
- ・平成16年に施行された『環境教育推進法』による、「環境の保全に関する知識や指導を行う能力を有する人材」を育成又は認定する『人材認定等事業』として、環境大臣と農水大臣の連名により登録

そして、認定主宰団体では、この資格者の役割を次のようにも言っております。

「森林を利用する一般の人たちに対して、森林や林業に関する知識を与え、森林の案内や森林内での野外活動の指導を行なう者」

要は、一般の方が、自然に親しんだり、環境問題を考えていくお手伝いをすることでしょう。

これから植物や自然生態系などの驚きを、できるだけビビッドにお伝えしていきたいと思いません。

私と一緒にこのブログでネット散策しませんか。そしてたまにはリアルなフィールド歩きも。

21. 葉っぱの話① 単葉・複葉か

6月

6月に入り、野山全植物が葉の展開を終わり、緑一面となりました。

6月は梅雨入りの季節でもあり、フィールドに出ることも少なくなるでしょうから、葉が展開しきった今が観察の好機、しばらく葉っぱについてのウンチクを傾けましょう。(日本では、この時期、ほとんどの植物は展葉している。しかし以前お話しした春植物(スプリング・エフェメラル)だけは、今頃から、地中で眠りにはいります)

さて、葉っぱのウンチクの最初は、クイズから。

左の7枚の写真の中で、中央に写っているひと塊の葉が、一つの葉っぱでないものが二つあります。さてどれでしょうか？



ツリバナ：にしきぎ科



ニセアカシア：まめ科

第1のそぞろ歩きコース「身近な植物」sample



【ネムノキ】 まめ科



【キンミズヒキ】 ばら科



【メタセコイヤ】 すぎ科



【トチノキ】 とちのき科



【タラノキ】 うこぎ科

正解は、一つの葉ではないのは、ツリバナとメタセコイヤです。

葉っぱが一枚だけでできているのを単葉、二枚以上の小葉が集まってできているのを複葉といいます。ツリバナとメタセコイヤは単葉、その他は複葉ということになります。タラノキやネムノキは、何十枚、百枚を超える小葉があつまって一つの葉なのです。

それは、いいかえれば、ツリバナとメタセコイヤは、葉の真ん中の軸が、葉の一部ではない枝であり、他は葉の一部の葉軸だということです。

単葉か複葉かを見分けるには、この枝か枝でない（葉軸）か、を見分けるのが鍵になります。どこで見分けがつくか？ それは「葉軸からは新しい枝芽は出ないが、枝からは出る」というところにあります。次回に、くわしくお話しましょう。

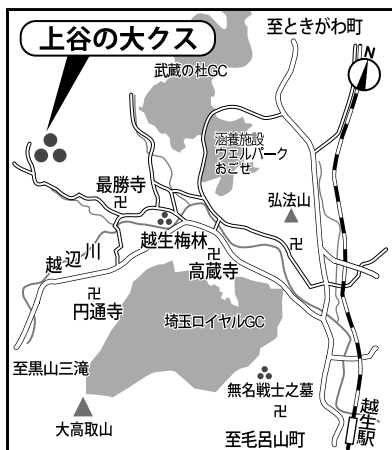
第2のそぞろ歩きコース 「巨樹」

12. 上谷の大楠

時節がら今回とり上げるのは桜。

埼玉県北本市・東光寺の石戸蒲桜です。

三春の滝桜（福島県三春町）、山高神代桜（山梨県旧武川村）、根尾谷の淡墨桜（岐阜県旧根尾村）、狩宿の下馬桜（静岡県富士宮市）と並んで、日本五大桜の一つとされています。幹周り六・四メートル、大きな幹が五本あったうちの四本が枯れ、今では一本残っているだけだといえます。昔は十一メートルもあったとか。樹齢八百年とされる。国指定天然記念物。



◆上谷の大楠

☒ JR 八高線・東武越生線越生駅
黒山行きバスに乗り「梅林入口」下車
徒歩 50 分ほど。案内板あり



民家の裏山にあります。
クスノキの巨樹といえば、西日本や海岸ぶちの定番。関東の、しかも、このような山の中にあるのは、奇跡に近い。



どこから撮っても、全体が入りきりません。
回りには、根の養生のため木道が設けられています。



関東一の巨樹。これまで見た巨樹の中でも最大級の迫力です。幹周り十五メートル、樹高三十メートル、樹齢約千年。予期はしていましたが、その巨大さに度肝を抜かれました。なにせ、他の樹種も含めても、

埼玉県越生町の上谷の大クスを見てきました。越生町といえば、梅林で有名。その梅林を通り越した山の中にあります。



所有者の民家の守り神として祀られています。



所有者の民家の守り神として祀られています。

まだまだ樹勢は旺盛です。
見学者は私一人。折からの強い風に葉ずれの音、木のきしむ音が、あたかも巨樹が千年の語りを語りかけているようでした。

著者略歴

1944年 愛媛県生まれ

1969年 京都大学大学院 文学研究科修士課程修了

30数年に及ぶビジネスマン生活の退職後の生き甲斐として、趣味が高じて「森林インストラクター」「森林活動ガイド」〔以上二つは(財)全国森林レクリエーション協会認定〕、「CONEリーダー」〔自然体験活動推進協議会認定〕などの資格を取得。自然観察会、環境教育、執筆などで活躍中。

著書に、『森林入門』(八坂書房 2006)のほか、ビジネス関係書など。

ブログURL：<http://forestjo.exblog.jp/>

荒川流域

ジョーさんの植物そぞろ歩き

2008年3月15日 初版第一刷発行

著者 豊島 襄

発行者 山本正史

印刷 恵友印刷株式会社

発行所 まつやま書房

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町3-2-5

Tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460

郵便振替 00190-3-70394

URL:<http://www.matsuyama-syobou.com/>

©NOBORU TOYOSHIMA

ISBN 978-4-89623-042-0 C0040

著者・出版社に無断で、この本の内容を転載・コピー・写真絵画その他これに準ずるものに利用することは著作権法に違反します。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

定価はカバー・表紙に印刷してあります。